

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

(91)

窓から毎朝のように眺める五葉山に、いつも厳肅な思いにさせられる。

昭和二十四年二月の厳冬期であった。盛高校三年生の元氣溢れる菅原利得君を中心に数名のパーティーを組み、高校生活最後の思い出に雪の五葉山登山をすることとした。盛高校を正午頃出発。往復の全行程は四十四時に及ぶ。

盛から権現堂、長安寺、関谷をとおり夕暮れ近くになってやっと五葉山の登り口に近い発電所に着いた。ここは従業員の好意により登山基地として重宝していた。私は

ちは休養し、仮眠を取り、腹ごしらえをした。「五葉山のご来光を拝みましよう」と夜の十一時に発電所を後にする。

私は天運を信じた。前進し、どんなに探し回っても神社は見えない。一瞬猛吹雪が止んだ、すまず深く、吹雪は容赦なく吹き付ける。

全員が体をザイルで結ぶ。立っては歩けない。這いながら雪の上を進む。やっと予定場所の神

神に祈る心

大船渡市末崎町 高橋 亨

社付近に着いたようだ。ところが、ここにあるはずの神社も鳥居も見えない。愕然とする。休憩なしに下山するにあたりにも体力が消耗しきって、吹雪と積雪は想像を超えている。

私は無我夢中で神に祈り、猛吹雪の雪原を這いずり回った。必死で記憶を呼び起こした。しか

まだ。持参したわずかな油、木炭、新聞紙、焼き玉エンジンに使う火薬で火を起こした。暖をと

ある。六十一年前のあの猛吹雪の五葉山登山が私を育んできた。生かされて

高等学校教諭、花巻護国学校校長、盛岡養護学校校長、文部省特殊教育専門委員、岩手県特殊教育

大船渡湾を見守るように鎮座している五葉山。その稜線はなだらかで、ゆったりした佇まいを見

【執筆者プロフィール】一九二三年、陸前高田市広田町生まれ。大船渡市末崎町在住。県立盛

慈愛福祉学園創設社会福祉法人設立基準の緩和や障がい者のJR運賃割引、療育手帳の軽度者への配布などに尽力。

シレー
エッセイ



長安寺から望む五葉山。自然との闘いの中から神に祈る心の大切さを教えられた